

# 新しき命



伊佐市長

隈元 新

明けましておめでとうございます。伊佐市が誕生しておかげさまで四年目を迎えます。「伊佐市」という名とひびきがこの三年間で定着したことを実感します。東海や関西、北九州で伊佐のふるさと会が発足し、今年は関東においても設立予定です。ふるさと大使の皆さまには伊佐市のPRとともに会の取りまとめにもご苦労いただき、心より御礼申し上げます。

郡山八幡神社に参拝し、新年の記帳をしながら、市民の皆さまの安全と安心、生命と財産がしっかり守られるようにお祈りするとともに、守っていくことをお誓い申し上げます。昨年は新燃岳の噴火で驚かされ、続いて東日本大震災という未曾有の災害が起き、福島原発の事故の深刻さにも苦しんでいる状態を思えばなおさらのことです。被災地への支援や心を寄せる活動は大切なことで、引き続き行ってまいります。市民の皆さまのご協力もよろしくお願いたします。

昭和二十九年（一九五四年）までは伊佐郡の六ヶ町村として一体感のある地域でしたので、スポーツなどの県大会は「郡代表」としての誇りを胸に抱き、肩に背負って頑張ったと聞きます。

伊佐郡から新しい伊佐市へとなり、この三年間で次第に「古き良き時代の伊佐郡」と「未来へ羽ばたく伊佐市」のイメージができてつつあります。象徴的な姿として、湯之尾神社奉納神舞をはじめとする伝統芸能やコミュニティによる結いの助け合いがあり、新曾木大橋の完成や時代を先取りする小水力発電施設建設があります。

今年は、干支の「龍」のように勢いのある年にしたいものです。ブータンでは「龍」は国旗に使われているほどで、人々に幸せをもたらす神の化身とも言われます。GDP（国内総生産）からGNH（国民総幸福度）へ考え方を変えることが、成熟した社会の価値観にふさわしいと思います。伊佐市は落ち着いて穏やかに住める最高のまちであり、農業や商工業など適正な規模で発展することができます。子育て日本一、障がい者やお年寄りの住みやすい市をめざしてまいります。

皆さまお一人おひとりの暮らしが、穏やかで、事故や災害のないことを心からお祈りいたします。輝く明日の光を信じて平成二十四年（二〇一二年）をスタートしましょう。

新しき命宿りて初参り 新

# 新年

2012

新年のあいさつ



伊佐市議会議長  
山下 親志

謹賀

## 誠心誠意

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年を迎え、健やかに過ごされたことと、心からお慶び申し上げます。

この一年、国内におきましては、昨年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震が、巨大な津波被害を沿岸各地にもたらし、未曾有の大災害となりました。また、大地震は、福島第一原子力発電所に深刻な事故を引き起こし、原発周辺住民が避難する非常事態となりました。伊佐市としましては、東北地方の3県に伊佐米を送り、また4月には支援先を宮城県南三陸町として職員を派遣するとともに、伊佐米と市民の方や企業から寄せられた支援物資を送りました。

また、市内におきましても、6、7月の集中豪雨で災害が発生しており、地域防災の再検証、災害に強いまちづくりの必要性を改めて痛感したところです。

伊佐市の昨年の新しい出来事としては、「おぎゃー献金」発祥の地に子ども交流支援センター笑（すまいる）が

が開所し、保護者にとって安心して子育てができる場として活用されています。また11月5日には、新曾木大橋が開通し、長さ204メートル、高さ約70メートルの大きな斜張橋がその雄姿を見せています。

一方、議会としましては、議会改革の一步として12月議会で議員定数を22人から18人へと削減しました。今後さらなる行政への監視および評価をはじめ独自の政策立案など、議会機能の一層の充実強化に取り組んでまいります。

これからも、さまざまな市政課題の解決に向け、市民の皆さまの声を十分お聴きし、しっかりとした議論を重ねるとともに、市議会の改革・活性化に引き続き取り組みながら、市民の皆さまの期待に応えるべく、誠心誠意尽くしてまいります。

新春に臨み、市民の皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆さまにとりまして幸せで実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心よりお祈りし、新年のごあいさつといたします。

※勧請：神仏の来臨を請うこと。

特集

ふるさと

# おやしる社探訪

## ゆのお 湯之尾神社

鎮座地  
菱刈川北字上原



由 緒 菱刈院の領主である菱刈重州（14代）の名の入った神鏡や鱈口があることから、菱刈氏の手厚い保護を受けていたと思われます。

毎年例祭に奉納される湯之尾神舞は、県の無形民俗文化財の指定を受けており、3年毎の大祭では26番全ての舞が奉納されます。



## しもですいてん 下手水天神社

鎮座地  
菱刈下手字諏訪前

由 緒 伝承によれば旧羽月村金波田に鎮座されていたが、ある年の洪水で流されて現在の地に留まり、奉祀されました。

例祭に奉納される錫杖踊りは、県の無形民俗文化財の指定を受けています。また、例祭の夜はそば祭りとして下手集落で手打ちそばが振舞われます。最近ではそばを打つ家庭は少なくなってきたものの、伝統は引き継がれています。



## はこぎき 箱崎神社

鎮座地  
菱刈市山字宮ノ下

由 緒 市山地区はむかし、市山（一山）村といい、筑前の国（福岡県）筥崎宮の神領でした。

本殿の屋根は棧瓦葺きの流れ造りで、本殿正面扉上の鬘股の様式・正面角柱間の頭貫の様式・虹梁などに室町時代の建築様式をうかがうことができます。本殿と宮殿は、国の有形文化財に、境内にある龍形石燈籠と青面金剛庚申塔は、市の文化財に指定されています。



## みなみかた 南方神社

鎮座地  
菱刈南浦字麓

由 緒 文明年間の菱刈氏の棟札があることから、勧請は文明年間と思われる。天正年間の島津忠豊の棟札もあります。

境内には、市の指定文化財になっている田之神像や江戸時代の馬越の石工海老原源左エ門作の仁王像・龍形燈籠があります。



## すがわら 菅原神社

鎮座地  
菱刈前目字前目

由 緒 文禄5年（1596）8月、馬越の地頭・大島出羽守忠泰の勧請で、山野と馬越の地頭となり馬越に居住したとされます。

祭神は、学問の神様でおなじみの菅原道真公です。



こおりやまはちまん  
郡山八幡神社

鎮座地  
大口大田字八幡山

由 緒 建久5年（1194）菱刈重妙によって  
建立されたといわれています。

昭和29年の解体修理の際、本殿北東の柱貫  
の先端から宮大工の落書きが発見されました。  
この落書きは、永禄2年（1559）に書かれた  
もので、日本国内で一番古い“焼酎”の文字と  
されており貴重な民俗資料です。

本殿は、国の重要文化財に指定されています。

初詣は、以前は元旦に限られたものでし  
たが、今では、松の内（お正月の松飾をつ  
けておく期間で1/7）までに済ませておけ  
ば良いと云われているそうです。

三が日、込み合う市外へ出かけるよりも、  
少し日をずらして、身近にある“お社”で  
ゆっくりと神様に願い事をしてみましょう。  
神様もじっくり聞いてくれるかも知れませ  
んよ。

※紙面の都合上、旧町村などから1つずつ掲載。

参考資料：伊佐郡神社誌



くまの  
熊野神社

鎮座地  
大口山野字平

由 緒 延徳4年（1492）に紀州熊野神社を  
勧請したと伝えられ、山野郷の宗社として領民  
に信仰されました。紀州熊野神社は平家の氏神  
であり平家の全盛期には、熊野信仰も盛んにな  
り全国へ波及しました。

参道の階段を昇ると、太平洋戦争終結の軍旗  
奉還の碑や県議長岩切大郎吉銅像の台座が残っ  
ています。



しらき  
白木神社

鎮座地  
大口白木字鍋山

由 緒 白木山長福寺というお寺の観音堂があ  
りましたが、明治初年の廃仏棄釈で白木神社と  
なりました。観音さまは、安産の神様で、参拜  
者も多く、以前は赤ちゃんのよだれ掛けが供え  
られていたそうです。また、毎年元旦と7月の  
例大祭時には、ご開帳があり、大変美しい白木  
観音像を拝顔できます。本殿・観音像は、県の  
文化財に指定されています。



は  
羽神社

鎮座地  
大口針持字兔田

由 緒 針持は都城島津氏庶流、北郷家領地の  
飛地であり北郷家の氏神である白羽火雷明神を  
分霊して針持に勧請し、村の産土神としました。

境内には、牛馬の守護神である葉山神社や安  
永8年（1779）に石段を造った時の庚申供養  
塔もあります。



あらせ  
荒瀬神社

鎮座地  
大口曾木字荒瀬

由 緒 むかし、湯之尾川南の荒瀬にあったが、  
川内川の大洪水により流され、この地では悪瀬  
大明神と呼ばれ曾木の人々の先祖御霊屋として  
祭られました。

神話によると海神（豊玉比古尊）の娘の豊玉  
姫尊は、安産の神として親しまれています。